

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：企業立地対策費

事業名【新】テクノプラザものづくり支援センター修繕工事費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業デジタル推進課 IT拠点活用推進係 電話番号：058-272-1111(内3723)

E-mail：c11356@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,530 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	6,530	0	0	0	0	0	0	4,800	1,730
決定額	6,530	0	0	0	0	0	0	2,700	3,830

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

テクノプラザものづくり支援センター本館(旧：科学技術振興センター)は竣工から25年、第一別館(旧：アネックステクノ2)は23年、第二別館(旧：人材開発支援センター)は18～20年経過しており、経年劣化等に伴う設備の更新及び修繕が必要となっている。テクノプラザものづくり支援センター本館は、平成18年度から指定管理制度を導入しており、令和6年度からは、本館、第一別館、第二別館及びベンチャーファクトリー(以下「本施設」という。)を一体で指定管理者が管理する。

(2) 事業内容

①本施設修繕工事にかかる経費

- ・テクノプラザものづくり支援センター本館AV会議システム撤去
- ・テクノプラザものづくり支援センター本館非常用発電機蓄電池等更新
- ・テクノプラザものづくり支援センター本館直流電源装置更新

②本施設設備改修にかかる委託費

- ・令和6年度は、該当なし

③本施設備品購入にかかる経費

- ・テクノプラザものづくり支援センター本館ワイヤレスマイク更新

(3) 県負担・補助率の考え方

本施設の修繕については、指定管理と締結している管理運営協定により費用負担区分を規定。

- ・ 1 件につき 60 万円未満の修繕：指定管理者が負担
- ・ 1 件につき 60 万円以上の修繕：岐阜県が負担

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	0	令和 6 年度は該当なし
工事請負費	4,726	本館 AV会議システム撤去【長寿命化外】 1,056
		本館 非常用発電機蓄電池等更新【長寿命化外】 2,586
		本館 直流電源装置更新【長寿命化外】 1,084
備品購入費	1,804	本館 ワイヤレスマイク更新【長寿命化外】 1,804
合計	6,530	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県デジタル・トランスフォーメーション推進計画

Ⅲ 各分野のDX

10 産業・労働

Ⅲ 各分野のDX

- (1) デジタル化の段階に応じた支援によるデジタル技術活用の裾野拡大
- (3) デジタル産業の強化・誘致

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

経年劣化等に伴う設備の更新及び修繕が年々増加している中、法令遵守、安全確保、不具合時の利用者影響度などから優先順位を付け設備の更新や修繕を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H17)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

施設設備等の更新工事であり、具体的な達成目標を設定できない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和 3 年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和 4 年度	・取組内容と成果を記載してください。
指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	入居者及び利用者に不利益を与えないよう、不断の施設維持が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	必要最低限の修繕により施設の維持管理を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	中長期保全計画を作成し、また、指定管理者と連携を密にとり、優先順位の高く必要な修繕を実施し、経費の節減を図っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 中長期保全計画で策定した修繕は、大規模な修繕を中心に先送りされ、機能維持が難しい設備も出てきており、待ったなしの段階である。施設運用面での課題や大規模設備の状況把握を行い、計画的に施設運営や修繕を実施する必要がある。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 施設の利用率や不具合の影響度などから優先順位を決め、順に維持する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	